



## 泳力低下は止まらず…。高学年の「泳ぎ続ける力」に課題

学年	調査項目(新)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	R4→R6推移
1年	伏し浮き	71.2%	75.3%	71.7%	0.5%
	バブリング	85.5%	85.6%	83.5%	-2.0%
2年	伏し浮き	83.2%	82.4%	80.3%	-2.9%
	ポビング	87.5%	84.4%	83.7%	-3.8%
	け伸び	74.4%	73.5%	73.3%	-1.1%
3年	け伸び	80.0%	78.6%	77.7%	-2.3%
	面かぶりクロール7m	61.8%	61.9%	59.3%	-2.5%
	かえる足	29.0%	28.8%	29.2%	0.2%
4年	け伸びクロール15m	57.2%	56.8%	54.9%	-2.3%
	け伸び平泳ぎ10m	38.0%	35.2%	32.8%	-5.2%
5年	クロール25m	55.2%	54.3%	50.3%	-4.9%
	平泳ぎ25m	45.6%	42.9%	40.5%	-5.1%
	背浮き10秒	76.6%	76.2%	74.0%	-2.6%
	5分間回泳	39.3%	40.8%	37.8%	-1.5%
6年	クロール25m	72.9%	62.4%	65.1%	-7.8%
	クロール50m	48.0%	40.7%	37.9%	-10.1%
	平泳ぎ25m	62.2%	52.5%	53.7%	-8.5%
	平泳ぎ50m	48.4%	41.6%	38.3%	-10.1%
	背浮き20秒	77.6%	69.3%	65.1%	-12.5%
	10分間回泳	52.3%	45.4%	43.7%	-8.6%

### <考察>

昨年度と同様に、泳力調査全体の数値が年々低下しています。高学年の「クロール」と「平泳ぎ」を令和4年度と比較すると、25mの項目は約5%、50mの項目は約10%低下しています。また、6年生は全ての項目が10%近く低下しています。その原因として、学校の教育活動の中で、子供たちの泳ぐ機会が減少していることが考えられます。水泳大会が無くなったことに加え、コロナ禍、夏の暑さによって水泳授業の実施回数が減っています。さらに、経験の浅い教師が増えているため、限られた時間の中で効果的な指導をすることが難しい現状があります。また、運動する子供とそうでない子供の二極化傾向が進んでいることも原因の1つであると考えられます。

今後も系統性を意識した指導を続けながら、活動時間の確保や外部講師の派遣指導を取り入れるなど、**児童が水中で長く活動できる体力や技能を伸ばしていく必要がある**と感じます。引き続き、各校での御指導をよろしくお願いいたします。

### <泳力向上につながった各校の指導法紹介>(令和6年度の実践より)

- 泳力ごとにコースを分けて、苦手意識のある児童のコースに教師が重点的に指導に入った。泳ぎが得意な児童のコースには、サーキットのような練習方法を取り入れ、運動量を確保した。(磐田中部小)
  - 保護者ボランティアを募り、着替えや事故防止のための監視をしてもらったり、スイミングスクールで指導経験のある保護者に技術的な指導をしてもらったりした。(豊岡南小)
  - 笛の拭き方で指示を明確にする。声の指示が通りづらい状況でも有効だった。(浅羽南小)
- 【複数の学校から挙がった指導法】
- 雨の日や暑い日にNHK for Schoolを視聴する。 ・座学の実施。
  - 陸上や体育館で平泳ぎの練習。 ・壁にポイントを貼り、いつでも見られるようにする。